

せん。自分達で出来る事、しなければならぬ事を追求して行く事が必要だと考え、「研究班」の立ち上げを提案しました。

当初は青壮年部内で立ち上げようとしたが、園芸、普通作、畜産など複雑で多岐にわたる事などから、上手くまとまらず暗礁に乗り上げていました。

昨年、野菜専門部会制になった事もあり、各品目ごとに青年部を立ち上げ、研究班を作る事が可能になりました。いきなり全品目で青年部を立ち上げて活動するのは厳しいのではないかと

いう意見から、安納いもの部会から始める事にしました。3年前から協議を重ね、今年ようやく見通しが付き、若いメンバーが4人集まりました。

まずはこのメンバーで、土壌検査に基づく土づくりから始まり、基本に忠実に、適切適宜な時期に植え付けや管理作業を行う事で質の良い安納いもを収穫しようと思われました。

今後は、経済連や部外から講師を呼んで販売運動などにも力を入れて行きたいと考えていま

す。実際に安納いもを販売する際には、自分達の妻も連れて行く事を計画しています。主婦目線の販売も大変面白いと思

ますし、なにより自分の作った作物が眼の前で売れるとなると、ますます自分の作ったものに責任を感じ、労働意欲の向上に繋がるのではないかと考えた

からです。この研究班が最終的に目標にしている事は、生産者と消費者が「見える関係」へ進んで行けたらと考えています。

グリーンツーリズム、農泊等により種子島に消費者を呼び、農業体験してもらう事で消費者に理解してもらい、生産者との距離を縮めてほしいのです。残念ながら今の自分達は農作業に集中しなければならず、このよ

うな農泊などの各種申請、段階を踏めないで、成功例を作るべく知人に農泊について動いてもらっています。この事業を頻

りに繋がりそれが種子島の発展に繋がる事を期待しています。自分達の島を守って行くには、横の繋がりが今まで以上に

これから大切になってくると考える様になりました。それは水産業や林業、商工会との繋がりで

す。現在、漁業が非常に荒れていて、漁獲高が年々減ってきているのです。地球温暖化や黒潮の変化など地球規模の問題も

原因の一つですが、市民による「獲り殺し」、我々農家が散布する農薬の影響なども関係がある

かもしれません。皆が手を取り合って一次産業を守っていく活動が必要ではないか、農業ばかりが儲けるのではなく、皆が幸せになる道を模索していかないと

結論に達しました。まずその第一歩として同じ考えを共有しようと同じ地区の4Hクラブ(農業青年クラブ)に声をかけ

ました。農業という同じ仕事という事もあり、きつと分かち合えると考えたからです。8月に役員会を行いました。若さと情熱でみなぎる彼らは快く快諾してくれました。さらにお互いの活動にも無理のない範囲で参加し、交流を深める事を確認し

ました。早速、今年の11月に4Hクラブが主催するバレーボールの大会に参加することが決定しています。少しでも、自分達の考えを共有する仲間を増やして行けたらと考えています。

西之表青壮年部も少子高齢化により、年々入部する人は少なく退部を予定している人の方が多くなり始めました。しかし、この様な中でも我々は進んで行かなければなりません。歩みを止めたらずこで終わりなので

す。農業を取り巻く問題は本当にたくさんあります。その問題に立ち向かっていくのは誰でもありません、私たちJA青壮年部なのです。我々は、その土地の番人であり、最後の砦です。

何も目を引く大きな活動をする事だけが組織活動ではないと思

います。地域に寄り添っている盟友が負担にならず、確実に活動しつづけてゆく事、これが今

求められる最高の組織活動ではないでしょうか。

